（様式３）

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	兵庫県	市町村名	神戸市	大学名	
派遣日	令和５年　８月　２３日（水曜日）　９：００～１２：００ ９：００～最終打合せ ９：３０～　１１：３０　研修実施 ９：３７～１１：５３　講義 １１：３０～１２：００　質疑応答・片付け ※派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細が分かる資料を添付してください。				
実施方法	※いずれかに〇をつけてください。　（派遣）　／　遠隔				
派遣場所	神戸市総合教育センター 〒650-0044　神戸市中央区東川崎町１－３－２				
アドバイザー氏名	今澤　悌　氏（山梨県甲府市立大国小学校　教諭）				
相談者	神戸市教育委員会　学校教育課				
相談内容	「日本語と教科の統合学習」について （※講義・演習形式） ・JSL カリキュラムとは ・JSL カリキュラムの活用法、実践例 ・授業づくりのステップ ・在籍学級でできる学習支援 ・在籍学級と取り出し指導との連携について				
派遣者からの指導助言内容	本研修には、日本語指導加配教員だけでなく、学級担任や日本語指導担当、および日本語指導に関心のある教員などが参加しており、講師の今澤先生は「日本語と教科の統合学習」というテーマのもと、それぞれの立場に照らし合わせて講義をしてくださった。また、模擬授業の一部も見せていただき、研修参加者が授業の進め方についてより具体的に理解することができた。 ・児童生徒はことばの力をもとに、認知的な発達や社会性、思考力・判断力・表現力を育てていく。よって、現状では授業の参加が難しいと考えるのではなく、今もっている児童生徒のことばの力をもとに、どう工夫して授業に参加できるようにするかという考え方で指導する。 ・日本語で学習活動に参加する力の育成方法の具体的な事例。 （「こん虫を調べよう」（理科：小学３年）を具体例とした、授業づくりのステップ） ・単元の学習内容を理解するために必要な語彙や表現の負荷を下げない、それ以外の負荷を下げる、という考え方。 ・ことばの置き換えでなく、ことばと概念を教えることの大切さ。 ・理解支援や表現支援などの様々な支援方法。「どんな手立て」で「何ができるように」させるかを具体的に考えることの大切さ。				

（様式３）

	・授業中に気をつけたいこと。（目標以外のことばの負荷を下げ、やさしい日本語を使う。情報を分けたり、色別で示したりする。整理する。簡略化する。等） ・中学生への「日本語と教科の統合学習」において、既有知識や母語を生かした理解の支援と認知的な発達を考慮し、課題・学習活動の認知レベルを下げないことが重要である。 ・日本語指導担当と在籍学級担任の連携。在籍学級の授業を生きた学びの場にするために、日本語指導担当ができること、在籍学級担任ができることを考える。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	本市には、日本語を母語としない児童生徒が近年増加しており、また散在化している。今後さらにどの学校においても日本語指導が必要となる機会が増えると考えられる。一方、「日本語と教科の統合学習」プログラムにおいて十分に理解し、推進している学校は現状決して多くない。そのような状況の中、このたび今澤先生より、数々の実践例をもとに指導方法について具体的にご教示いただき、研修参加者にとって大変有意義な時間となった。研修参加者からも、「授業の組み立て方や多様な支援方法を教えていただき、自分もやってみたいと前向きに考えられるようになった。」という感想が多数寄せられた。 また、取出し指導だけでなく、在籍学級での学習支援についても話に触れてくださったことで、学級担任および教科担任が日頃の授業にプラスαとしてできることを具体的に理解し、２学期からの指針につながった。 今後の研修においても、今澤先生のご講義を踏まえて、校内の支援体制について教員同士で話し合ったり、実際に「日本語と教科の統合学習プログラム」の授業を組み立てたりするなどの具体的な活動を積み重ねることで、各校においてより実践が広がるよう努めてまいりたい。

１枚にまとめる必要はありませんので**詳細に**記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。